

和
密
院

昭和十一年一月二十五日立案

書記官長

主筆

書記官

書記官



日本國英國間通商航海條約ニ對スル
補足條約御批准ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ日本國英國間通商航海條

約ニ對スル補足條約御批准ノ件ヲ審査スルニ明

治四十四年四月締結セラレタル現行ノ日英通
商航海條約ハ爾後事情ノ變遷ニ因リ改訂スヘ
キモノアルニ至リレヲ以テ帝國政府ハ大正十三年
三月以來英國政府ト商議ヲ重ネ其ノ結果先ツ
同年七月本院ノ御諮詢ヲ經テ交換公文ニ依リ

同條約中一定ノ英國品ニ對スル輸入税ノ低減及
一定ノ日本品ニ對スル輸入税ノ免除ヲ規定シタル第
八條及附屬稅表ノミヲ廢棄スル旨ノ協定ヲ為シ
タルカ更ニ兩國政府間ニ交渉ヲ遂ケ二三ノ事項ニ
關シ現行條約ニ對スル追加取極ヲ為スノ協議調ヒ

（昨）
本年七月三十日倫敦ニ於テ兩國全權委員ノ署名

調印ヲ見ルニ至レリ是レ即チ本案ノ補足條約ニシ

テ其ノ要旨ヲ略述スレハ左ノ如シ

（一）現行條約ニ於テハ兩締約國ノ一方ノ原産品ハ他
方ニ輸入セラルルニ當リ其ノ何レノ地ヨリ到ルヲ

三

向ハス輸入税ノ賦課ニ付最惠國待遇ヲ享クヘキ旨

ヲ規定セルカ本案ニ於テハ最近列國間ニ締結セラ

レタル海港ノ國際制度ニ關スル規程第七條ニ掲ケ

タル地理上、經濟上又ハ技術上ノ特殊狀態其ノ

他別段ノ事情ニ基ク正當ノ理由アルトキハ兩國ハ

各々其ノ陸境ヨリ輸入セラルル貨物ニ對シ關稅ノ
特別輕減ヲ為スコトヲ得ル旨ヲ定メ此ノ關稅輕
減カ果シテ前記規程第七條ノ條項ニ適合スルヤ
否ヤニ關シ紛爭ヲ生シタルトキハ兩國ハ同規程第
二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ先ツ該紛爭

ヲ交通及通過ニ關スル國際聯盟ノ諮問及專門
機關ニ付託シ次テ之ヲ常設國際司法裁判所又ハ
仲裁裁判ニ付託スヘキモノトシ尚右ノ諮問及專門
機關カ假意見ヲ與ヘタルトキハ之ニ從フヘキ旨ヲ定

ム(第一條)

(二) 現行條約第二十一條ニ於テハ兩國ノ沿岸貿易ハ最
惠國待遇ヲ保障スルノ外各自ノ國法ノ定ムル所ニ
依ル旨ヲ規定シタルカ本案ニ於テハ兩國ノ一方カ自
國ノ國法又ハ第三國トノ協定ニ依リ此ノ特惠ヲ相
互條件ニ繫ラレタルトキ他方ハ相互條件ノ下ニ

五

於テノミ該利益ヲ要求スルコトヲ得ル旨ノ制限ヲ

追加ス(第三條)

(三) 現行條約ニ於テハ英國ノ海外領土其ノ他ノ屬領ノ

箇別的加入及脱退ノ規定ヲ設ケ帝國ノ屬領ニ関

シテハ別段ノ規定ヲ置カサリシカ本案ニ於テハ此ノ

補足條約ニ依リ變更セラレタル現行條約ハ帝國ノ

一切ノ屬地、租借地及委任統治地域ニ之ヲ適用ス

ル旨ヲ明ニシ且此等ノ屬領ニ付テハ箇別的ニ十二月前

ノ豫告ヲ以テ脱退スルコトヲ得ル旨ヲ定ム(第三條)

(四) 従前現行條約ニ加入セル英國ノ屬領ニ對シテハ

別段ノ通告ナキ限り現行條約ヲ其ノ儘適用スル

コトトシ(第四條) 現行條約ノ締結後自治ノ地位ヲ獲

得セル「アイルランド」自由國ニ付テモ亦此ノ例ニ依ル

ヘキコト及同國ハ箇別的ニ脱退シ得ヘキコトヲ明ニシ

(第五條) 又従前現行條約ニ加入セザリシ英國ノ自治領

殖民地、屬地、保護領、租借地及委任統治地域ニ付

テハ箇別的ニ別段ノ通告ヲ以テ本補足條約ニ依リ

前

變更セラレタル現行條約ニ加入シ且十二月ノ豫告

ヲ以テ脱退スルコトヲ得ル旨ヲ定ム(第六條)

(五)本補足條約ハ批准ヲ要シ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ

實施シ其ノ確定的有効期間ヲ五年トシ爾後十二月前

ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルモノトス(第八條)

而シテ現行條約中補足條約ニ依リ變更セラレサル

部分モ亦其ノ當初ノ規定ニ拘ラス本補足條約ノ有

效期間内有效ナルモノトス(第七條)

本補足條約ニ附帶セル兩國代表者間ノ會議ノ議事録
アリ此ノ議事録ハ兩國代表者カ本條約ニ調印スルニ
當リ後末疑義ヲ生セサラセムル為諒解ヲ遂ケタル
諸點ヲ記録シ署名シタルモノニシテ其ノ要旨ハ(一)日
本國ハ相互條件ノ下ニ沿岸貿易ヲ許與スルニ當リ

英國ノ一部ニ於テ日本船舶ニ沿岸貿易ノ相互待遇
ヲ與ヘストノ理由ニ因リ英國ノ他ノ部分ノ船舶ニ對シ之
ヲ拒絕セサルヘキコトヲ明ニシ且本問題ニ關スル精細ナル
高議ハ後日日本國ニ於テ現實ニ沿岸貿易ヲ許容
スルトキ迄之ヲ留保スルコトヲ定メ(二)本補足條約カ

西國ノ委任統治地域ニ適用セラルル場合ニ於テ該條
 約ノ條項ト國際聯盟規約ノ規定及該地域ニ關スル
 委任統治條項ト抵觸スルコトアラハ聯盟ノ規約及委
 任統治條項ニ從フヘキコトヲ定メ(三)曩ニ廢棄セラレタ
 ル條約第八條及附屬稅表ハ「アイランド」自由國ニ

對シテモ亦失效シタルモノナルコトヲ明ニスルノ諸點是
 レナリ

按スルニ本案ノ補足條約ハ事情ノ推移ニ應シテ現
 行ノ日英通商航海條約ニ相當ノ改正ヲ加ヘムトスルモ
 ノニシテ其ノ條項ハ附帶ノ議事録ト共ニ別ニ支

秘
密
既ニ

障ノ廉ヲ認メス而シテ英國ニ於テハ今ヤ之カ批准
ノ準備成レリト聞クヲ以テ帝國ニ於テモ此ノ際之
ヲ御批准アラセラルルコト當然ノ措置ナリ即チ本案
ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルヘシト思料ス
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和ニ
木中十五年一月二十九日

書記官長

議長紀

昭和二年一月十一日立

書記官長

主筆

書記官

書記官

日本國「ホーランド」國間通商航海條約ニ
「ダンチッヒ」自由市加入ニ關スル公文交換
ノ件審査報告

謹テ今由御諮詢、日本國「ホーランド」國間通商

航海條約ニ「ダンチッヒ」自由市加入ニ關スル公文交換

秘
密
附